

第2回 神戸港カーボンニュートラルポート(CNP)協議会 議事概要

日時：令和4年10月28日（金） 14:00～15:30

場所：神戸ポートオアシス 5階502・503会議室（WEB併用）

●議事

- （1）国内外諸港におけるCNPの取組み事例の紹介
- （2）「神戸港CNP形成計画(素案)」について

●委員からの主な意見

- 京浜3港は連携して脱炭素化を推進していると認識しており、神戸港としても、今後の動向を注視していく必要があるのではないか。
- 水素の受入等の観点から姫路港との連携が重要。また神戸港の場合、港湾と空港の連携を促進することで、先進性をPRできるのではないか。
- 神戸港が成長しつつ脱炭素化を実現していくという観点が重要。コンテナ単位当たりの排出量の推移を指標とするといった視点も必要ではないか。
- 工場等の増設など経済が成長すれば、CO₂排出量は自ずと増加する可能性がある。そのため、追加的なCO₂排出量を分けて記載するなど工夫できないか。
- 複数に点在する倉庫では、荷役機器(フォークリフトなど)のFC化を進めても、水素供給拠点まで移動させることが困難。水素供給方法など、実際の運用まで考慮した計画が必要ではないか。
- 大型船舶でアンモニア燃料への転換が進むことを想定すると、神戸港においてもアンモニアのバンカリングに向けたインフラ整備が必要ではないか。
- 荷主から選ばれる港湾となるためには、神戸港の特色を打ち出す必要がある。内航フィーダー網やフェリー網の充実といった神戸港の強みを活かしたモーダルシフトも重要な取組みではないか。
- 神戸港のCNPの取組みを対外的に発信し、他港と差別化するためにも、キャッチフレーズを掲げてはどうか。幅広いステークホルダーに周知を図り、港湾のみならず空港や市街地も含めた神戸エリア全体をひとつのブランドとして発信できる、わかりやすいキーワードが望ましい。